

令和6年度第1回宮城野区区民協働まちづくり事業 評価委員会 令和5年度企画事業実績報告及び事後評価 議事要旨

日 時：令和6年5月22日(水) 午後6時15分～8時45分
場 所：宮城野区中央市民センター2階 第1会議室
出席者：大西委員長、有坂副委員長、安部委員、葛西委員、
眞野委員、まちづくり推進課

1 開会

※入れ替え制での開催のため、委員長挨拶・評価委員の紹介・概要説明は省略。

2 事業報告及び質疑応答

(1) すずむしの里づくり事業（実施主体：すずむしの里づくり実行委員会）

<質疑・意見>

委 員 今回の経過報告は、小学校での出前講座の数も増えている。今まで、継続して事業を行ってきた成果ができていように見える。より未来が明るくなっているような気がする。

説明者 未だに閉塞感・高齢化の問題は抱えているが、できることを少しずつ行ったところ、出前講座の数が増えた。また、すずむしの飼育場所である岩切市民センターが令和8年度から大規模改修となるため、すずむしの飼育ケース100箱をどちらに移すか検討することが目下の課題である。

委 員 すずむしの里づくりの出前講座に参加した小学校から、すごく楽しかったという声を聞いたことがあるが、どういう形で出前講座に参加した人の声を拾っているか教えて欲しい。また、ボランティア養成講座の話がでていたが、ボランティアに参加している人数を教えて欲しい。

説明者 出前講座に参加した人には「すずむし先生へのお手紙」という形でアンケートをとっている。実行委員の他に必ず参加するボランティアの方は1名である。他にオンラインで行った会議等は5～6名である。

委 員 例えば、地域や町内会の夏祭りのお祭りなどでもすずむしの交換会や配布会は可能なのか？

説明者 すずむしの数や状態による。夏祭りの時期は、元気で数もあるが、9月頃になると数も少なく元気もない。また、毎年夏に交換会を行うため数が揃えられるよう準備しているが、状況が毎年異なるので、その時になったら相談して欲しい。

(2) 地域はっぴい子育て支援事業（実施主体：みやぎの区民協議会子育て支援部会）

<質疑・意見>

委 員 父親やシングルの方への子育て支援等にも目を向けていることが分かって嬉しく思っている。仙台市も子育てしやすい街になろうというということで、こども財団ができています。子育て支援部会の活動はその先駆けに値すると考えているので、今後の活動も頑張ってください。

説明者 私自身も児童館職員として働いているため、先駆けになれるよう活動頑張っていきたい。

委員 昨年度の課題に、参加者が思ったより少なかったとあるが、今年度はどのような対策をとるのか？

説明者 昨年度は広報からイベント開催までの期間が短く、十分な周知が出来なかったことが原因と考えている。今年度は、年度当初にイベントのスケジュールを決められるよう部員に働きかけ、広報期間に余裕を持たせて進めていくことを考えている。また、全体スケジュールを記載したチラシを配布し、開催地区以外にも興味を持ってもらった方に参加できるよう広報を強化していく予定である。その他、みやぎの・まつりでも広報をする等、地域の枠を広げたいと考えている。

委員 参加者がもう少し増えるとよいと考えているが、リアルだけではない等、何か手立てを考えているのか？

説明者 参加対象者を増やす試みとして、今年度新しく父親向け支援を検討している。手始めに両親向けイベントを土曜日開催する予定である。また、共働き家庭も増えているので、そういう家庭のお子さんやご両親も支援対象として視野に入りたいと考えている。

委員 ママらいふ手帳や手帳活用講座のなかで、自分と向き合う時間を作っており、育児の中での孤立を防ぐことはされているかと思っているが、「地域の中での孤立の解消」への出口設計をどのように考えているのか教えて欲しい。

説明者 難しい課題だと考えている。私たちの部会だけではなく、児童館や市民センターや区として連携して、孤立を防ぐことができないか検討している。実際、家庭健康課にも協力いただき、外にでてこない家庭等は、新生児訪問の時にお声がけして、地域の子育て施設や民生委員さん等を紹介してもらっている。部会員だけではなく、部会員が参加している地域の独自ネットワーク等で、地域の他の施設の情報もいただきながら、対応にあたりたいと思っている。地域での孤立を防ぐことについては、難しい課題だと思うが、どの地域にどんな声が多いか等の地域の特性を、部会員やその地域の子育て施設が把握できるよう、情報共有できるように努めている。

委員 地域の民生委員さんとの繋がりや、顔をみた時に挨拶できる関係性等が孤立を防ぐことだと思う。子供を介して知り合いが増えていくということも、地域で足をつけて暮らしていくことに繋がると思うので、活動を継続して欲しい。

(3) おらほの公園草刈隊支援事業（担当課：宮城野区公園課）

<質疑・意見>

委員 公園の草刈りについては、業者や愛護協会等があると思うが、おらほの公園草刈り隊の制度の概要をご教示いただきたい。

説明者 公園の草刈りについては、大きく2つある。公園課の業務委託で行う年1回の除草と、公園愛護協力会やおらほの公園草刈り隊等のボランティアによる除草である。そのうち、おらほの公園草刈り隊は、ボランティア団体が1公園につき1つ登録されており、その団体が草刈りをする場合に、公園課から草刈り機等の貸し出しを行っている。なお、ボランティア団体が登録されている場合は、公園に「おらほの公園草刈り隊」の案内板が設置されている。公園に「おらほの公園草刈り隊」の案内板がない場合には、ボランティア団体が登録されていないとだけ思えばよい。なお、一部公園については、企業がボランティア団体として登録し、草刈り隊を担っているところもある。

委員 承知した。公園の除草については、どの町内会も頭を悩ませている。良い事業だと思うので是非つづけて欲しい。

(4-1) ご近所ふれあいステップアップ事業（担当課：宮城野区区民生活課）

<質疑・意見>

委員 ご近所ふれあいステップ事業は地域が限られていると思うが、6年度の対象地域はどこになるのか？また、「安全安心」をうたっているが、どのような方と連携しているのか教えて欲しい。

説明者 東仙台中学校区の東北本線を挟んで北側の地域を予定している。防犯協会の方々と協力して事業を実施している。

委員 対象地域を限定しているとのことだが、長期的な計画があるのであれば連合町内会にも共有してもらえると、何等かの協力ができると思うので、是非共有して欲しい。

説明者 承知した。その他、警察からの特殊詐欺被害などの情報があると、その地区を対象に防犯に関する啓蒙活動を行う予定である。

委員 収支決算書にある「いかのおすし定規」とは、どのようなものか教えて欲しい。

説明者 「いかのおすし」は、子供達が不審者にあつた時の身を守るための行動をまとめた標語のことで、「いか」は、知らない人にはついて「いか」ない。「の」は、声を掛けられても、車には「の」らない。「お」は、知らない人に連れていかれそうになったら「お」おきな声を出す。「す」は、声を掛けられたり、追いかけられたりしたら「す」ぐ逃げる。「し」は、怖いことにあつたり見たりしたら、すぐに大人に「し」らせる。を覚えやすいようにまとめた標語である。防犯教室が開催された時に、児童に定規を配布したものである。

委員 学校等でも防犯教室を行っていると思うが、どのような関係になっているのか？

説明者 事前に学校と連絡をとり、学校行事の中で防犯教室を行う場合に、防犯教室の内容にあつた啓発グッズなどの提供をしている。安全安心モデル地区の選定は中学校区に行っており、昨年度は幸町中学校区で行っていた。

委員 中学校区で選定するのであれば、中学校区毎にある「青少年健全育成協議会」とも情報を共有して欲しい。その団体は、子供達の防犯に関することに大変興味がある団体のため、地域との繋がりがもっと増えるのではないかと考えている。

説明者 今年度の進め方については、検討してみたい。

(4-2) 地域防災力向事業（担当課：宮城野区区民生活課）

<質疑・意見>

委員 地域防災力向事業のイベントの対象地域は宮城野区全体だと考えてよいか？

説明者 そのとおりである。主に宮城野区の町内会等で防災に関係する方にイベントのご案内をしており、地震風水害等に対する防災力を高める講習等を行っている。

委員 今年のイベントはSBLとの講習と日程が近かつたため、参加人数が少なかつたとのことだが、今後は日程調整を調整し、是非宮城野区の色々な場所でイベントを実施して欲しい。

説明者 承知した。

(5) みやぎの・まつり（実施主体：みやぎの・まつり実行委員会）

<質疑・意見>

委員 コロナ前と比較して、露店や出店の数が少なくなっているような気がする。食べ物については、区民が楽しみにしているので、ぜひ数を増やして欲しい。

説明者 ぜひ露店コーナー担当と力を合わせて対応をしたい、

委員 物価高騰のため支出経費が増加しているとのことだが、何か策は講じるのか？また、まつ

りの収入の出店料の内訳や自主収入があれば教えて欲しい。

説明者 令和5年度は、物価高騰に伴いテントの借用料等が想定より高額となったため、まつりの中で収支の改善を検討する必要がでてきたところである。まつりの収入の出店料については、主に露店や他都市コーナーの収入が大部分である。その他、今年度以降、出店料の見直しと、まつりの協賛金やぼっぽ列車等の有料化を検討している。できるだけ自助努力で収支改善をはかりたいと考えている。なお、まつりの事業収入については、露店の出店料が14団体175,900円、他都市交流コーナーが8都市9団体94,700円となっている。

(6) 宮文活性化事業（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

<質疑・意見>

委員 青空縁日に合わせて宮城野区文化センターの広場にキッチンカーを呼ぶのは画期的な事業だったと思う。この事業については、午前と午後のお昼休みの休憩時間に、周辺に飲食店が少なく客足が途切れる課題があったと記載があるが、来年度事業終了するということは、近所に飲食店が増えて課題が解決したと考えてよいか？

説明者 周囲の飲食店については変わっていない認識であるが、この事業の目的である宮城野区文化センターを区民の皆さまに知ってもらうという点や青空縁日に関しての客足については、一定の役割を終えたと考えている。

委員 確かに宮城野区文化センターのシアターホール等はなかなか予約が取れないと聞いている。是非、今後もこのような仕掛けができると思いっている。

委員 宮城野区文化センターの広場は常に人がたたずんでいる場所となっているので、今後ともこのような人との交流を生む事業を行って欲しい

説明者 承知した。

(7) みやぎの地域力向上支援事業（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

<質疑・意見>

委員 活動エリアが2ヶ所となっているが、それ以外の宮城野区に展開していく可能性はあるのか？

説明者 検討をしていく。

委員 様々な地域で是非、展開して欲しい。今回の事業は子供達を巻き込んだイベントをしている点がよかった。宮城野区は転勤族や転入者が多い。子供達の地元だからという点で、親世代が後追いでまちづくりに参加している方も多く実感しているのも、こども達を通して、大人を巻き込むツールとして是非この事業を活用して欲しいと思う。

委員 原町支部、駅東支部とはどのエリアとなるのか？

説明者 駅東支部は、榴岡・鉄砲町・二十人町を中心とした歴史を中心にしており、原町支部については、原町周辺となっている。新たな支部を作るかどうか未定であるが、宮城野区の他のエリアにも対象を広げることを検討したい。

委員 榴岡小学校の連携はどのようにしているのか？

説明者 榴岡小学校については、授業の一環として昔の地図を作っており、宮城野アーカイブの駅東支部の部員と一緒に、その成果を同じ会場で発表している。みやぎの地域力向上支援事業と小学校の事業は別物であるが、趣旨が合致するため同じ会場で成果を発表している。

(8) 宮城野盆踊り普及事業（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

<質疑・意見>

委員 収支決算書で、収入が約125万円のところ、支出が約47万円となっている。差額78万円

出た経緯を説明して欲しい。

説明者 収支決算書の「収入」については、「予算」として読み替えていただきたい。当初計画では、約 125 万円の予算立てをしており、実際の支出が約 47 万円となった。差額 78 万円の大部分は委託料の差額 50 万円である。業務委託費として 70 万の予算を組んでいたが、今年度はウチワの増版等の業務委託を行わなかったことや、まつりの会場設営の業務委託の請け差により、業務委託費の実支出が約 20 万円となったことが大きい。また、DVD の増版をしなかったことにより、「著作権使用料」の 10 万円の支払いがなかったこともある。残りの 10 万円については、請け差である。

委員 7月8月に盆踊り活動しているとの報告があるが、各町内会の盆踊りのやぐら代等はどこが支払っているのか？町内会でパイプを町内会で櫓を組んで盆踊りをしていたが、踊手や組手がいなくなって、盆踊りをしなくなっている。

説明者 盆踊りのやぐらについては、各町内会で支出している。講師派遣と普及活動のみとなっている。

委員 私の町内会でもやぐらは高額なので、盆踊りを踊る際には丸い円を描いてみんなで踊っている。宮城野盆踊りを普及させたいという気持ちはわかるが、踊りたいという人自体がいなくなっている。もう少し考えないと盆踊りを踊りたいという人が増えないので、別の手立てが必要ではないか？

説明者 昔盆踊りを楽しんでいた年齢層の方は、一年一年を取っていく。昔の愛好者を大切にしながら、若い世代も取り組んでいきたいと考えている。子供が学校等で踊ると、親世代も興味を持ってもらえると考えており、小学校にも重点的に声掛けをしているが、まだ結果につながっておらず苦戦している。

委員 宮城野盆唄があるということを知らない 40 代、50 代がすごく増えている。小学校では、ソーラン節を踊ることが多いので、どうしても踊りというとソーラン節という形になっている。例えば、町内会と子供会のパイプをしっかりつなぎ、夏祭り前に盆踊りを練習する機会が町内会であると、子供も大人も盆踊りを踊れるようになるし、町内会の知り合いを作る機会が増える。せっかくあるものが無くなってしまうのは寂しいため、是非 50 代以下の方にも普及できる工夫をして欲しい。例えば、子供達がウチワの裏面に絵を書けるように工夫し、ワークショップのような楽しみを付加して、なんとなく皆が踊れるようになるにしたり、昔から宮城野盆唄を踊れる人をレジェンドとして練習に参加してもらったりするなど、練習に参加すること自体がわくわくできるような工夫をして欲しいと思っている。

(9) 震災の記憶伝承と命を守る防災学習（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

<質疑・意見>

委員 わしん倶楽部は、どのような団体なのか？

説明者 防災のクロスゲームを中心に、乾物を利用した食事の作り方など行っている。

委員 防災という点を継承していくという点で、次の世代にも伝えていけるとよいので、是非今後も宜しくお願いします。

委員 震災の記憶伝承と命を守る防災学習の収支決算書については、業務委託先毎に分かれているが、宮城野区の事業としては 1 つの事業であるため、1 事業として収支決算書を記載する必要があるのでないかと思うので、検討をお願いしたい。

(10) みやぎの・まちづくり若手人材育成支援事業（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

<質疑・意見>

委員 この事業については、参加者の募集が最大のテーマだと思うが、この9名の参加者についてはどのような方がいらっしゃるのか？一般の方への周知も含めて頑張ってもらいたい。

説明者 宮城野区に住んでいる方が多い。その他には、東北福祉大学に通学の方やガス局に勤務している等がいる。うち、学生が5名、社会人の方が4名である。

委員 最初9名で参加しているが、だんだんと参加人数が減ってきているように見える。最後の企画発表の参加者が3名となっている。何か考えられる理由があるか？

説明者 発表の時期が3月だったこともあり、全員の都合がつく日程が取れず、発表会に参加できる方が3名だった。参加できなかった方については、後日 SNS 上で企画を発表してもらうなどの対応をとり、成果を共有してもらっている。事前に日程を周知していたのだが、他のプロジェクトに参加されている方も多く、全員の都合が付かなかったことは残念であった。

委員 この事業の前期でお招きしたゲストのうち宮城野区に関係のある方は、1人だけのように見える。この事業は、全国版でも仙台市版でもなく、自分の身の回りにある宮城野区のまちづくりである。小さなことでよいので、自分たちの身近にある気づきから、宮城野区を魅力的にするまちづくりの学びが始まると思っている。ぜひ、後期では、自分のまちにすむ若者が、町内会に対して、「こんなことして、宮城野区を魅力的にしてみませんか？」「こんなことをしたいので、一緒にやってみませんか？協力してもらえませんか？」という企画ができることに期待したい。

説明者 前期の令和5年度については、コーディネータの知人の中で、「まちづくり活動を収益化」できている方を中心にゲストをお呼びした結果、区外の方が多くなってしまった。後期の令和6年度については、身近な学生や、区内にお住まいの身近な活動をされている方をゲストにお招する方向性で進めていたので、身近にある気づきから、まちづくり活動ができるようにしたいと考えている。

委員 全体設計については、コーディネータにお任せしているという認識でよいのか？

説明者 コーディネータとまちづくり推進課で定期的に打ち合わせをして、全体の方向性を決めている。

委員 最後の発表の人数が減ってしまったとのことだが、3月は忙しい時期なのでスケジュール確保が難しかったということもあるが、参加者の優先順位を上げることができなかったということも大きい原因ではないかと考えている。この事業を全体的にみると、参加者へのインプットの比率が大きいのが、中間のアウトプットがないため、「今考えていることを実現すると、どんな風になるだろう？」「こういうまちづくりをしたいので、似たようなまちづくりをしている人をゲストに呼んで欲しい」、「実現するためには、いつまでにどんなことをする必要はある？」等の、参加者自らがモチベーションを上げ、後半に向けて、検討や情報収集を加速できる機会が作れなかったのではないかと推測している。ぜひ、後期は、全体設計の中で、参加者のギアを上げる中間発表等の工夫をしていただき、最後の発表で、やりたいことを具体的に実現するための一歩目が踏み出せるようにして欲しい。

4 閉会